

# なんかい、98号

2015年5月1日発行

南海寮 広報委員会  
熊本県天草市本町下河内1685番地の1  
TEL 0969-23-3850  
FAX 0969-22-4977  
Mail keiyukai@cup.ocn.ne.jp  
URL <http://www.nankairyu.or.jp/>

## 祝 開設40周年



### 歴史の重みを感じ、 新たな歴史を築く

施設長 松浦 郁太

昭和50年5月1日に定員60名の知的障害者入所更生施設が本町柵ノ原に誕生し早や40年。

平成15年に措置制度から支援費制度に、その後自立支援法、総合支援法とめまぐるしく制度が変わり、現在入所60名、生活介護85名、生活訓練6名、短期入所5名、グループホーム9名相談支援等の事業を経営する法人に発展してきたのも、行政をはじめ、ご家族や地域の方々、関係者の皆様のご理解とご協力があればこそと感謝を申し上げます。

開設当初から入所されていた利用者も現在は20名弱に、その当時の職員はほとんど退職され日課や作業種目等も見直し、変化を重ね現在に至っています。当初を知る人からすると隔世の感があるのではと思っています。

先人の努力があって、今の法人・施設の存在がある事を、その感謝の気持ちを忘れない為に毎年5月1日に開所記念食事を6年前から実施してきましたが、今年度は40周年という節目

の年であり、利用者や家族、職員、法人の役員の皆様方と共に40周年の歴史の重みと喜びを分かち合えればと思っています。

40周年に当たり、さらなる進化を遂げ、新たな歴史を築く為にも、利用者一人ひとりの意思や意見を尊重し、本人の望む支援に繋げ、意思決定支援を重視しながら、個々の潜在能力の開発と生活の更なる向上を図り、共生社会の実現に向けた事業展開を図っていきたくと考えています。

時代が変わり制度も変わり、求められるニーズに定める事業運営が期待される中、変えないものと変えるべきものとの見極めをしっかりと行い、常に何をやるか、何が出来るかを考えながら行動する職場風土づくりに取り組むと共に、諸先輩が築かれた土台を強固なものに、大きな木に育てる役割が我々後進に課せられた課題、責務だと考えております。社会に必要とされ、信頼される法人・施設づくりに更なる発展をめざし、職員の皆様と共に取り組んでいきたいと思っております。今後とも関係者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



3月  
21日

## お大師様参り

### 社会参加の意味を伝える重要性

本町地区で行われたお大師様参りに各グループ毎に分かれ参拝してきました。お大師様こと「弘法大師空海」が高野山を開き、高野山万燈会の願文に「虚空尽き 涅槃尽き 衆生尽きなば 我が願いも尽きなむ」お大師様の祈りは天が消え、仏の世界すら消え、人が消えてなくなるまで続くと宣言されています。

利用者の方には説明する事も難しくありますが少しでも意味を説明し参加して頂く事も重要だと感じました。当日は天候にも恵まれ、利用者の方々はそれぞれの参拝所で合掌されお参りされていました。(大中佑介)



3月  
28日

## 繭姫通りおんなの夜祭り

### 天草ならではの屋台に舌鼓み

天草本渡の繭姫通りにて催された「繭姫夜祭り」に利用者と職員合わせて7名で出掛けました。当日は桜も咲き始め、利用者も桜の花を見ながら楽しそうに過ごされていました。また、歩行者天国では屋台も多くありとても賑わっていました。屋台では焼き鳥やちらし寿司等を購入され花見をしながら美味しそうに食べられていました。

帰寮後も「また、行きたい！楽しかった！」と話されておりとても良い思い出になったと思います。利用者の方の普段とは違う一面が見られて良かったです。

(西岡咲貴)



4月  
15日

## 味千ラーメンボランティア

### 出張味千ラーメンオープン！

今年も皆さんが楽しみにされている味千ラーメンボランティアが開催されました。このボランティアは、重光産業株式会社様の40周年記念事業として開始され、今年で9回目の開催となりました。

ラーメンが提供されると「わー」と喜びの声が聞かれ「美味しいね」と会話をしながら食べる人、黙々と食べる人など、思い思いに本場の味を楽しまれました。ラーメンを食べ終えた後は重光産業、味千ラーメン茶北店のスタッフの方と記念撮影を行い、最後に感謝の言葉を述べると「来年も来ます」とのお言葉も頂戴しました。来年も皆さんと共に楽しみたいと思います。(金子孝史)



4月  
26日

## 家族会総会

### 家族間との「絆」を強固に

当施設も今年で開設40年を迎えましたが、開設から間もなく、我が子を支えて行く「親の会」として保護者会が発足しました。あれから40年近い年月を経て当時のご家族の熱意と意思が脈々と受け継がれ、現在は親から兄弟姉妹へと世代交代の時期を迎え、また名称も「家族会」と名は変わりましたが、今もなおご利用者・施設の縁の下の力持ちとして活動して頂いております。

昨今、社会福祉情勢は目紛しく変化し、ご家族にとっても座視できない状況にあります。共にご利用者を「守っていく」ことを柱として、これまで以上に相互の「絆」を強固なものにしていきたいと思っております。(松浦光毅)



## ひなまつり (3月)



## 桜満開 (3月)



## 繭姫通りおんなの夜祭り (3月)



## 弁当バイキング (4月)



## 味千ラーメンボランティア (4月)



# 平成27年度 家族会総会（4月）



## 修 告 研 報

○JT研修会

### 高いレベルでの人材育成を目指して

支援員 松 下 加津美

○JTとは職場内教育のことで上司または先輩が、部下・後輩に対して職務に必要な能力を仕事を通して計画的重点的に指導育成する管理行動を指します。職場内という近い関係により個人のレベルに応じて教育出来るというメリットがあります。人材育成の意義として、組織に

とっては技術を伝承しながら、複雑に変化する環境やニーズに対応できる力を付けることができ、職員にとっては自分の役割に対する意識を向上させ、よりレベルの高い仕事に取り組み意欲を育てることができます。26年度は新人育成担当として職場内教育に携わってきました。約

1年かけて、計画に沿い組織の仕組みや業務内容等、段階を踏んで支援技術の一つずつ伝えていったことで、組織の一員としての基礎の部分も備えた人材を育成できたと思います。しかし人材育成もこれで終わりではなく今後よりレベルの高い支援を目指してもらうため、持続して指導することが大切であり、研修会で学んだノウハウをさらに活かしていこうと思います。

## 修 告 研 報

発達障がいを持つ子と親と支援者の為のABA講座

### より良い支援者として幅広い視点を

支援員 高 瀧 大 介

「なんで?」にはかならず理由がある」ABAとは応用行動分析の略語で多方面で活用されています。この講義では発達障がいの方の問題行動について保護者や学校関係者の方と講義を聴き検討を行いました。

事柄が難しいのと同様に当事者自身が私達の気持ちを理解する事が難しいと考えている事。その為、私たちが思っている常識が通用せず、問題行動だと思われる事が多くあります。行動とは「事前の行動↓行動↓結果」という流れで自分自身が成功した体験を繰り返すとい

う特徴があり、結果を重視し改善させようとしていましたが、事前の行動を察知し問題行動を回避できるように環境を整える事で問題行動が現れないケースが非常に多い事を学びました。また保護者や関係者の幅広い意見を聴く事で、支援者としての視点以外にも目を向ける事ができました。ルールにはめようとして、ルールを変えていく柔軟な発想を持つて接する事ができる支援者を目指し頑張ります。

### 施設内研修テーマ

#### ハイムリック法と背部叩打法



4月、新任の職員を対象にハイムリック法と背部叩打法について勉強会を実施しました。ハイムリック法とは、誤嚥をして食べ物を喉に詰まらせた場合に対する異物除去法のひとつです。方法は誤嚥した人を後ろから抱きかかえ、片方の握りこぶしをみぞおちに当て、そのこぶしを片方の手で握り、内上方に向かって圧迫するように押し上げます。この動作を繰り返す事で、異物を吐き出させます。背部叩打法も異物除去法のひとつです。方法は救護者はひざまずき、傷病者を自分の方に向け側臥位（身体を横向きにする体位）にし、手の平で、肩甲骨の間を力強く連続で叩く方法です。ハイムリック法を何度か試して効果のない場合は背部叩打法に切り替え救急蘇生を行います。

当施設も高齢・重度化がすすみ日常的に食事で咽たり、お茶で咽たりされる方が増えてきている現状です。1分1秒を争う救急に備え、毎年4月はハイムリック法・背部叩打法の説明会を行い、9月には消防署の方に心肺蘇生法の講義をお願いし、心臓マッサージの訓練を行っています。毎日の支援では、食べ物等詰めないように心がけていますが、予測できない事も多くあります。あつてはならない事故が起きた時、直ぐ実践出来るよう日々考動していきたいと思います。



看護師 原田 公子



# がんばったで賞

毎月「なにかひとつ頑張った」ことを表彰している「がんばったで賞」  
今回は平成27年2月から平成27年4月に受賞された皆さんです。

## 2月 (Feb)



上原 誠さん  
入浴後の後片付けを  
がんばりました



瀧下 瑞枝さん  
リハビリをがんばりました



前田 恵介さん  
リハビリをがんばりました



山崎 良雄さん  
晩柑の皮むき作業を  
がんばりました



吉川 光伸さん  
作業や歩行をがんばり  
ました

## 3月 (Mar)



有江 康子さん  
お手伝いをがんばりました



江崎 淳一さん  
一輪車での運搬作業を  
がんばりました



坂本 信人さん  
リハビリをがんばりました



佐々木 優さん  
リハビリをがんばりました



高瀬 行雄さん  
歩行をがんばりました

## 4月 (Apr)



田崎 沙弥香さん  
ビーズ通しをがんばり  
ました



寺岡 徳雄さん  
塗り絵をがんばり  
ました



長岡 誓さん  
洗濯物運びをがんばり  
ました



西崎 ますみさん  
歩行をがんばり  
ました



森 知香さん  
ビーズ作業をがんばり  
ました

### 天草空港周辺景観 整備業務委託事業

天草空港の下にある花壇を天草市から委託されて管理しており、前年度も1年を通してキレイな花を咲かせる事ができました。利用者の方と一緒に苗を育てる事から始め、その成長を共に観察しながら喜びを感じていました。

花は5月と11月の2期に分けて植付けを行い、夏には猛暑、冬には寒波と対

応が大変な時期もあり、利用者・職員で協力する大切さを知る事も出来たように感じます。

また、花壇にて作業を行っている時に、「いつも通ってキレイだなと思っていました」と声を掛けて頂く事もあり、それを励みに頑張ってきました。

今年度も市と契約を交わし、皆さんにキレイな花を見て貰う事で、癒しを提供できればと思っています。(金子孝史)



## 通所センターだより



日に日に日差しが強く感じる今日この頃、皆さんいかがお過ごしでしょうか。新しい年度が始まり1ヶ月が経ちました。センターには今年度も新しい仲間が増えて毎日賑やかに、そして楽しく活動に取り組んでいます。

支援学校高等部を卒業されたばかりの18歳、山下侑大さんと松本圭世さんの2名が生活訓練の利用となられ、当初は緊張が見られて、あまり声もきかれませんでした。今は笑顔や笑い声、ダンスや歌も見せてくださり、賑やかなセンターの一員、イヤ、主役とな

られています。

センターでの生活は、お二人にしてみたら、年上の方が多く、いろいろな会話が飛び交ったり、急にミニ劇場が始まりみんなが大笑いしたりと、今までとは違う環境で初めての体験ばかり。また、日課の変更などにも戸惑う様子が見られていますが、焦らず、それぞれのペースにあわせて支援をすすめているところです。皆さん、よろしくお祈りします。

(大仁田美穂)

### 職員研修会等参加報告

- |                         |     |
|-------------------------|-----|
| ■ 会計実務研修 (2月12日)        | 佐藤  |
| ■ 人権同和フォローアップ研修 (2月16日) | 松浦光 |
| ■ スーパーバイザー研修 (2月17・18日) | 坂本  |
| ■ 発達障がい連続講座 (2月21日)     | 大中  |
| ■ 相談支援現任者研修 (3月3・4日)    | 松本か |
| ■ 労務管理研修 (3月2日)         | 佐藤  |
| ■ フレッシュセミナー (4月10日)     | 松本安 |



福田菜美 支援員(旧姓:五嶋)

### 祝!!寿退職

(H.27年3月末退職)

絶えまぬ笑顔と心温かい支援で利用者の方からも絶大な人気がありましたが、この度めでたくゴールイン!寿退職となりました。7年間お疲れ様でした。幸せな家庭を築いて下さい!

### 今後の予定

- 5月1日 40周年開所記念祝賀会
- 5月10日 藍愛ピック(天草地区施設スポーツ大会)
- 6月 ボウリング大会
- 6月 夏期衣類移動販売

### 編集後記

ご利用者・ご家族、地域や関係各位の皆様のおかげで40周年という節目を迎えることができました。現在記念誌の発行に向けて準備を行っておりますが、開設からの懐かしい写真の数々を目にし、時代の変遷と歴史の重みを感じながら、当時の写真から溢れ出るバイタリティに感化され、写真の整理も忘れて夢中になり感慨に浸ってしまいました。これまで40年という誇りある歴史の道筋を立ててくださった皆様がいる、その道を歩む今の私たちがいる、次の10年、また20年と歩みをとめることなく更なる飛躍に向けて前進していく決意を新たにすることができました。

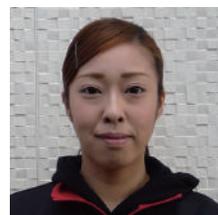
koki

### 新任職員紹介

よろしくおねがいます!



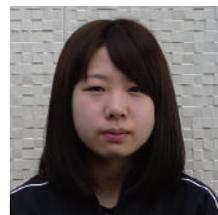
小玉大貴(支援員)



勘崎亜美(支援員)



白濱真子(支援員)



松本安純(事務員)

退所/嶽下政行さん(天草市)

3月24日、逝去され退所となりました。謹んでお悔やみ申しあげますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。